

# 狭山にゆかりのある文化人紹介 その17

## 政治家・教育者・俳人 田口 宗平

1833(天保4)年～1887(明治20)年

### 1. 経歴・狭山市との関わり

1833(天保4)年、宗平は入間郡北入曾村(現・狭山市北入曾)に田口保明の長男として生まれ、幼名を惣兵衛と言ひ、後に宗平と称する。父の保明は『群書類従』編纂者の国学者・塙保己一の高弟であった。彼は幼少より学問を愛し、漢学を北入曾村の積亮賢と関口貞斎に、和算を宮野助左衛門に学ぶ。1852(嘉永5)年、19歳の若さで北入曾村の名主に就任。しかし、学問に夢があった宗平は名主職を父に預け、江戸へ上る。そして、保己一の四男・忠宝の和学講談所に入門する。しかし、1863(文久2)年、忠宝が勤皇の志士に暗殺され、帰郷する。

彼は父が開いた手習い塾を助け、子弟の教育に尽力するとともに村政にも力を尽くした。1876(明治9)年、村政が紛糾すると戸長に押され、村民の融和に取り組む。在職3年目に退任しようとしたが、村民に慰留され、1882(同15)年まで6年間、戸長を務める。そして1887(同20)年10月1日、54歳の若さで病没する。1895(同28)年8月10日、教え子によって「竹友田口君碑」と刻まれた顕彰碑が建てられる。その表面は正四位勲四等文学博士川田剛が撰文し、正四位勲三等巖谷修(児童文学者巖谷小波の父)が染筆する。そして裏面には「落際の念なき桐の一葉哉」と詠んだ竹友の辞世が彫られている。

### 2. 主な業績

1872(同5)年の学制発布で公立学校の開設が要請されると、翌6年、近郷近在に先駆けて北入曾村外6か村が話し合い、宗平の離れに広さ3間×5間の入曾学校(後の入間小学校)を設立し、訓導を務める。しかし、新たな教授法の必要性を感じた宗平は、群馬県前橋町(現・前橋市)の群馬師範学校(現・群馬大学教育学部)に入学し、近代的な教授法を学ぶ。学校に戻ると、子弟の教育に尽くした。彼の教育法は優れ、教え子は学ぶことが多く、教育者沢田泉山を初め多くの有能な人物を輩出した。

### 3. 特筆

彼は、地域の俳諧の発展に寄与した。蚊雷庵に弟子入りし愛碧軒と号した後、初代蚊雷庵の死去後に第二世を継承、竹友と号し月影連を主宰する。北入曾村や堀金村(現・堀兼地区)、入間川村(現・入間川)、金子村(現・入間市金子)に弟子を持ち、登喜庵や拙庵、紙葉軒と交友を結ぶ。1862(文久2)年刊行の『俳諧画像集』で「道あるにわさわさくゝる やなぎ哉」「日は家の中よりくれて 雪あかり」を発表する。また、著書の『俳諧合鑑』も高く評価された。



田口宗平の肖像

〈参考文献〉『続狭山市入間の歴史』『俳諧画像集』

文責：権田恒夫

### 編集後記

- ★文化祭の季節となり、私も少し忙しくなった。日頃の練習の成果をお客様の前で発表するのは、緊張するけど楽しい。私の所属する狭山市民謡協会は、11月12日サンパーク奥富で、4年ぶりに「民謡のつどい」を70名の参加で開催した。
- ★同じ文団連の新舞踊連盟と三曲連盟は市民会館会場市民文化祭に参加し発表したが、市民会館は費用面で私たちには重荷。入間市では文化協会主催の芸能発表会で産業文化センターホールが無料で使用でき、うらやましい。
- ★11月17日に、もう「桜まつり実行委員会」が開かれた。来春の桜まつりは、桜の開花時期が早まっているのを考慮して3月30日・31日に開催の予定。  
(高沢正夫)



文団連HP  
www.bunren.org